

### 第3章 保育所内支援体制づくり

#### ◇ 個別支援計画とは

障がいのある子ども一人一人のニーズを把握し、長期的な視点で支援していくという考えのもと、乳幼児から学校卒業後まで一貫した的確な支援を行うための計画です。

#### ◇ 個別指導計画とは

個別支援計画をふまえ具体的に一人一人の保育ニーズに応じた目標、支援の内容をまとめた計画です。必要に応じて保護者と一緒に支援会議を持ちこどもの姿と具体的な支援について確認しあいます。

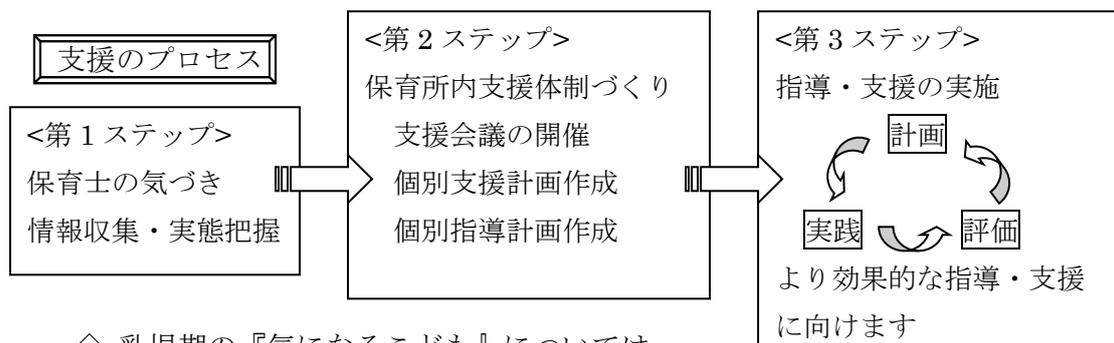
#### ◇ 保育所内支援会議の役割

こどもの実態把握をもとに保護者や関係機関と連携し、個別支援計画・個別指導計画を作成し支援にあたります。支援にあたっては職員全体で共通理解を図り統一的な支援が行えるよう所内支援会議等で確認しあいます。また、職員研修等を行い障がいに対する正しい理解と支援のノウハウやスキルを学びます。

#### ◇ 保護者との連携

保護者のこどもの障がい受容に至る過程は様々であり、また、保護者が抱える背景も様々であるため連携がスムーズにいかないこともあります。保護者も支援の対象として、保護者の思いやしんどさに寄り添い、傾聴・共感・受容の姿勢で信頼関係を作っていくことが何より大切です。

保護者の理解がなかなか得られなくても、保育士は保育の中で出来る事を行い、ていねいな行動観察に基づく指導を続け、どのようなかわりをするとかどもが分かりやすいのかを具体的に保護者に伝え、家庭と共にこどもの理解に努めていくことが大切です。保護者連携は適切な支援の基盤になります。プライバシーや個人情報の保護に関しては十分留意します。



#### ◇ 乳児期の『気になる子ども』については、

チェックリストを参照に注意深く見守りましょう。

第3章では個別支援計画・個別指導計画作成時の留意点やポイント、実際に作成した計画を紹介しています。ふきだしてポイントや留意点をあげていますので計画を立てる時の参考にしてください。

## 個別支援計画作成におけるポイント

【書式は参考例】

※ 障がいのある子ども一人一人のニーズを把握し、長期的な視点で支援していくという考えのもと保育所が中心となって関係機関と連携し、的確な保育を行うための計画です。

※ 保育所在籍中における子どもの状況をこの1枚に記入します。

### 個別支援計画（例）

					年度 ~	年度
児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無	
	男・女	年 月 日	( )歳児クラス担	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生育歴、相談歴(いつ、どこで、誰に)、受けた検査の種類と検査結果、診断名などを記入します。</li> <li>・診断名の他に特性があれば記入すると計画が立てやすいです。</li> </ul>	級) B1・B2 社手帳 1級・2級・3級 1級・2級	
		入所年月日	( )歳児クラス担			
		年 月	・保育所在籍中における子どもの担任が分かるように記入します。			
医療・相談機関			関係機関からの支援や情報			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係諸機関及び担当者名を記入します。病院ならば主治医名、福祉機関ならば担当者名を記載し、連携が取りやすいように連絡先も記載されていることが望まれます。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成の過程において子どもの関係する機関の人々と、どのように連携し、どのように共通理解を図ったか、子どもの様々な生活の場面でどのような支援がされ、どのように評価されたかを確認することが大切です。</li> </ul>			
保護者の願い			支援の目標・内容			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある子どもが将来にわたり、豊かな生活を送ることを願い、「こうありたい」という保護者のニーズを記入します。</li> <li>・保護者の連携については、保護者の不安や緊張を和らげ、安心感をもってもらうことが大切です。「傾聴」「共感」「受容」の姿勢で臨むことが大切です。</li> <li>・保護者は支援者として支援計画の作成・実施・評価等すべてに関わり役割を果たします。保護者の願いや思いを十分に受け止め支援計画に共通理解を図ることが必要です。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li><b>支援目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人のニーズに応じて的確な支援を行うために、保護者も支援者の一人として、その思いや願いを十分に聞き取り、関係諸機関と話し合いを持ちながら協力して支援目標を設定します。</li> </ul> </li> <li><b>支援の内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援目標を達成するために実際どのような支援が必要となるのか、保育・医療・福祉関係機関の協力を得ながら作成することが必要です。</li> </ul> </li> </ul>			
この内容の支援をお願いします。			保護者名			

( 保育所)

## 個別指導計画作成におけるポイント

- ※ 個別支援計画をふまえて具体的に一人一人の保育ニーズに応じた指導目標、支援内容等をまとめた計画です。
- ※ クラスの指導計画をベースにして、この指導計画を作成します。
- ※ 1ヶ月ごと～4期に分ける等、こどもの姿に合わせて記入をします。
- ※ 文章は、端的にかつ肯定的な表現にし、保護者と共に作成することもふまえて十分な配慮が必要です。

個別指導計画 (例)

児童名		家庭の様子			年度	
クラス年齢		ねらい			所長	担任(記録者)
項目	児童の姿	ねらい	具体的な援助・具体的な手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活面	・生活・運動・身体面・認識・言語・社会性等の項目を必要に応じて記入してください。	・スモールステップで目標を立て、少し努力すれば達成できるものにします。	・手立ては環境面と援助面の両面から考えることが望ましいです。	・具体的な援助・手立てを行った結果として、こどもの姿を具体的に客観的に記入します。	・具体的な状況から評価・今後の課題を出し、次のねらいにどう生かしていくかを考えます。 ・ここで具体的な評価をしておくこと次のねらいとつなげていきやすいでしょう。	
運動・身体面		・こどもの立場で「～をする」等、具体的に表現します。				
認識・言語面	・4.5歳児では意図的に認識面のねらいを入れておく方が望ましいです。		・保育士の立場で、ねらいを達成するために、どのような支援、課題を、どのような場面で行うかについて援助を具体的に記入します。			
コミュニケーション面	・広汎性発達障害のこどもは社会性とコミュニケーション面で問題が生じやすいため、項目を分けて細かくおさえていくことが望ましいです。					
その他					・保護者も支援者の一人として、保育に積極的に関わることができるように保育内容の確認を行い、サインを求めます。	
この内容の支援をお願いします。				保護者名		

個別指導計画 (例)

児童名		年度	
クラス年齢		所長	担任(記録者)
項目	児童の姿		
生活面			
運動			
身体面			
認識・言語面			
コミュニケーション面			
その他			

### 計画作成時の手順

- ① まずここまでを立案します
- ② 支援(援助、手立て)後、こどもの姿(具体的な状況)とそれを評価し検討します
- ③ ②の姿が次の立案のこどもの姿につながります

広汎性発達障害・知的障害のこどもの事例

個別支援計画

平成 18 年度～ 21 年度

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病などの状況	手帳の有無
I	男	平成 15 年 7 月 日	3 歳児 H・F・T 4 歳児 T・A・T 5 歳児 Y・T	平成 18 年 月 中央児童相談所 広汎性発達障害、軽度知的障害 平成 20 年 月 総合医療センター（児童青年精神科） 知的発達－軽度遅滞	療育手帳 B2
		入所年月日			
		平成 19 年 4 月 1 日			
医療・相談機関			関係機関からの支援や情報		
<ul style="list-style-type: none"> <li>総合医療センター 言語科 ○○先生</li> <li>総合医療センター 児童青年精神科</li> <li>教育センター</li> </ul>			21 年 月 総合医療センター 言語科 <ul style="list-style-type: none"> <li>絵カード ・ 4 つの絵を見て、言われた言葉に合う絵を選ぶ</li> <li>・ 4 つの絵の中から、問題の絵と類似点や関連性がある絵を選ぶ</li> <li>・ 生活レベルは 3～4 歳台（生活に困らない）</li> <li>・ 適切ではない言い回し方「・・・っていったり。」などについて 本児にとってはゲームなのでむきになって対応するよりは、違う言葉に置き換えて言い直す対応をすればよい。</li> <li>・ 静かな状況で一人だけしゃべってしまうのを、今すぐやめるようにはできないが、生活のいろいろな経験の中で、自分をコントロールする力をつけていくように支援していく。</li> </ul>		
保護者の願い			支援の目標・内容		
<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な言葉を使えるようになる。</li> <li>友だちの気持ちや、思いに気づくようになる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な言葉の使い方を知らせていく。（家庭と一緒に並行して）</li> <li>友だちの気持ちや思いを知らせ、気づかせていく。</li> </ul>		
この内容の支援をお願いします。			保護者名		

（ 保育所）

児童名 I		家庭の様子 ・母の体調の悪い日は家族が代わりに送り迎えしている。母は不適切な言葉を使ってしまふことや、話を静かに聞くべき場面でずっとなやべってしまうことを、とても気にしている。			所長 印	担任(記録者) 印
クラス年齢 ( 5 )歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な援助・具体的な手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活面	・特に支援の必要はない。	必要がない場合はこのように記入する。		内言語を外言語にしてしまうので沈黙の練習や、遊びをするのもよい。		
社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス全体で話を聞いている時に、保育士の言動に対して「そなんしたらあかんで!」「むり!」などと否定的な言葉を使ってしまふ。</li> <li>・友だちと関わる中で、前後関係なく「はなくそじじい」「わっる～(悪い)」など不適切な言葉を使ってしまふ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス全体での話を静かに聞けるようになる。</li> <li>「今から説明する間は何も話さないでね。そのあと質問を受けます。」と具体的に言う。</li> <li>・友だちの気持ちを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士がクラス全体に話をしている時に話し始めたら、全てを受け答えしたり、禁止や否定的な言葉をかけるのではなく、「今は話を聞く時」であることを知らせる。</li> <li>・コミック会話、絵カードを使用し、状況把握、友だちの気持ちをわかりやすく示す。</li> <li>・友だちや保育士に対して適切な言葉を使っているときは褒める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の働きかけの中で、少しずつ穏やかになる。保育士の表情を見て、小さい声で話そうとしたりする。</li> <li>・「しんではまえ。」と言ったことを、コミック会話に書こうとするといやがり、自分から「ごめんなさいっていう」と言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿を認めるように関わると穏やかになる。</li> <li>・肯定的に認める中で、穏やかに過ごせる時間を増やす。</li> <li>・コミック会話や気持ちカードを使ったり、言葉で気持ちを伝えると、「いやなきもち?」というように、相手の気持ちに対して、確認をしている。その都度、気持ちを伝えるように心がける。</li> </ul>	
この内容の支援をお願いします				保護者名		
6月24日～7月23日 作成				7月24日～8月23日 作成		

精神発達遅滞で 広汎性発達障害と多動傾向のこどもの事例

個別支援計画

平成20年度～ 22年度

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病などの状況	手帳の有無
Z	男	平成16年8月 日	3歳児 K 4歳児 O・F	軽度精神発達遅滞	療育手帳 B2
		入所年月日			
		平成20年4月1日			
医療・相談機関			関係機関からの支援や情報		
<ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇区保健福祉センター家庭児童相談室 母子通所</li> <li>療育施設〇〇学園（作業療法・言語療法）</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>母子通所：こどもはグループで遊んでいる。（保護者はその間保護者同士で話をする）担当の先生によると、この春よりいろいろな面で伸びが大きいとの事。6月 日に保育所に来てもらい話をする予定であったが発熱のため、延期になる。</li> <li>療育施設：作業療法の内容は、母は把握していない。言語療法時は母は側で見ているとの事。迷路などをしている姿を見ると少し落ちついてきたとの事。</li> </ul>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     障がい・疾病等のところに判定は、軽度精神発達遅滞としか出ていないが、特性としては広汎性発達障害、多動傾向があるので記入しておくことこどもの状況がわかりやすく、指導計画を立てるときにも役立つ。                 </div>					
保護者の願い			支援の目標・内容		
<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉で伝える事が増えてほしい。</li> <li>社会のルールをわかってほしい。</li> <li>こだわりを少しでも無くしてほしい。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>生活面で気が散らない環境を整え、自分でできることを増やしていく。</li> <li>自分の思いを伝えられるよう、指示を短くしながら理解できるようにしていく。</li> <li>少しずつルールを理解できるよう、具体的に伝える。</li> </ul>		
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     実態として、                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意が散りやすい</li> <li>・一連の作業・行動が最後まで成し遂げられない</li> </ul>                     といった点を明確に、支援目的・内容にあげておくことが必要である。このことを記入しておく。                 </div>		
この内容の支援をお願いします。			保護者名		



個別指導計画

7月 ~ 8月

平成21年度

児童名 <b>Z</b>		＜家庭の様子＞			所長	担任（記録者）
クラス年齢 4歳児		誰と一緒に朝の準備をするかを明確に書く。			印	印
項目	児童の姿	ねらい	具体的な援助・具体的な手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活面	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の用意は母が渡したものを順に置きに行く。 <u>帳面入れやタオルかけを見て、誰が来ていないかを確認。「まだ?」「やすみ?」と聞いてくる。又友だちが出席ノートにきちんとシールを貼ったのが気に入り、一冊ずつ見ることがある。</u></li> <li>外遊びから部屋遊びに変わる時、自分が使いたい玩具を友だちに取りたくないので、手洗い・うがいをしなくても「やった」と言う時がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の用意をできる日は、保育士と一緒にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの置き場に写真などを貼り、視覚的にもわかるようにする。</li> <li>聞いてきたことにはその都度答え、納得して気持ちが落ちつくようにする。</li> <li><u>他の子の帳面を出して見てはいけないことを、その都度言って知らせる。</u></li> <li>夏は衣服の着替えが多くなるので、戸惑うことのないように、やり終えるまで側を離れないようにする。</li> </ul>			
コミュニケーション面	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>三輪車や砂場の玩具・ままごとの玩具は、自分がほしいものを必ず取るうと必死になる。順番に使うことや分け合うことを嫌がる。友だちが使っているといらいらして、隙をみて取ろうとしている。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>決まっている生活習慣をきちんと身につける為、足洗い・手洗い・うがい・衣服の着脱・帰りの準備などを保育士と一緒に丁寧にする</li> <li>友だちと一緒に使う玩具は貸しあったり、分けあったり譲りあったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>怒って興奮してしまって静止する声も届かなくなってしまった時は「やめて」や「だめ」のカードを出し、視覚にも訴えたと動きが止まる。落ちついてから友だちと一緒に話し合う。</li> </ul>		この部分が支援の重点になってしまっていてはいけない。怒って興奮させないことが必要である。万が一そうってしまった時のみ、この支援を使用する。保育士が常に側につく中で、トラブルにならないように伝えておく、などに変更する。	
社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと遊んでいると、自分の思い通りにするように言ったり注目されるよう大声で促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと心地よく過ごす方法を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水遊びでは保育士と一緒にする中で、絶対にふざけたり興奮して危険なことにならない対応をする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ふざけたりといった記載でなく、具体的な内容にする。 例：叩いたり、沈めたりしない。</li> <li>突然水遊びが出てくるのではなく、ねらいにも水遊びをいれておく。 例：プール遊びの約束を守ろうとする。</li> </ul>	
この内容の支援でお願い		本児のこだわりのところ。ソーシャルスキルのポイント。どちらの位置に立ったサポートをするかが大切。交渉術を教える。気持ちの高ぶりを抑えることは難しい。高ぶらない方法を考えることが大切。		*社会性の支援として ・本児自身のルールだけでなくクラス全体としてのルールを作る。		保護者名

7月～8月分を記載

次月に続く

自閉症で言語をもたないこどもの事例

個別支援計画

平成 22 年度～

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病などの状況	手帳の有無
T	男	平成 18 年 1 月 日 入所年月日 平成 22 年 4 月 1 日	4 歳児担任 ○	自閉症 〔言語をほとんど持たないため、 コミュニケーションが取りにくい〕	療育手帳 B2 〔平成 24 年 1 月再判定予定〕
医療・相談機関			関係機関からの支援や情報		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇病院（〇〇Dr.）</li> <li>・〇〇区保健福祉センター家庭児童相談室（担当 〇〇さん）</li> <li>・大阪市立子ども相談センター（〇〇さん）</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 21 年 2 月頃に、かかりつけの病院からの紹介で受診。〇〇病院より《バイバイする時、手のひらを自分側に向けるので、気になる》と、家庭児童相談所や子ども相談センターにつないでもらう。経過を見る中で保育所には思ったより早く慣れていくとのことだ平成 22 年 7 月の受診時に所長・担任同行予定</li> <li>・色々な機関を紹介する中で〇〇幼児クラブへとつなが</li> <li>・平成 21 年 4 月 S-M 社会生活能力検査と母への問診により B2 判定。療育手帳取得。相談時、泣き続けて眠ってしまう。母の問診より、思いが伝わらないと泣き続けるとのこと。（K 式は取れず）</li> <li>・子ども相談センター判定員より、認識はゆっくりである、見たものはよく覚えている、人に対して警戒心は無い、とのことだった</li> </ul>		
発達検査の内容は、どの検査だったのか、数値、検査時の様子、具体的助言があれば、記載しておく			<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 21 年 5 月より親子教室へ週 1 回通う。同 10 月よりデイも併用。保育所に通うようになり、発語が増え、切り替えが早くなってきているとのこと。平成 22 年 6 月 所長・担任見学</li> <li>・平成 22 年 6 月より、毎週木曜日、母子通所開始。</li> </ul>		
保護者の願い			支援の目標・内容		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉がたくさん出て欲しい</li> <li>・自分で出来る事が増えて欲しい</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスに関わる保育士と信頼関係を深く持ち、安心できる関係作りをする</li> <li>・1 日の流れを日々同じにする中でも安心感を持っていく</li> <li>・安心できる人間関係や環境の中で理解している事と、そうでない事を表情や仕草の中から読み取り、わかるよう端的に伝えわかる事を増やしていく</li> <li>・身の回りのことから、できることを増やしていく</li> </ul>		

〔保護者の願い〕と〔支援の目標・内容〕について

〔保護者の願い〕をくみ取りながら、対象児の育ちをいろいろな情報から総合的に判断する中で、〔支援の目標・内容〕を決めていくので、必ずしも〔保護者の願い〕ひとつひとつに対する支援が必要なものではない。また、〔保護者の願い〕と違う視点での〔支援の目標・内容〕を考えていくことが必要なこともある。

（ 保育所 ）

児童名 T		家庭の様子…保育所で絵カードを使っていることを伝えると、家庭で使うのは抵抗があり、方法がわからなかった事を母から聞くことができた。保育所と同じ絵カードを渡すと、早速使用してくれ、口で何度も言うよりわかりやすいようだと言ってくれた。			所長	担任(記録者)
クラス年齢 4歳児					㊦	㊦
項目	児童の姿	ねらい	具体的な援助・具体的な手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活面	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の準備は椅子に座り、リュックを前に置き、かごの中に取り出した4点(コップ袋・タオル・足拭きタオル・帳面)を入れるようにすると、持ちやすそうにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の準備を保育士に見守られながら、友だちと一緒にしたり自分でしようとしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の準備は椅子に座るようにし、向かいにリュックを置きそこからかごに出すようにする。気がそれた時は声をかけるようにする。</li> <li>基本的には最後まで見守っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>座らず、机にリュックとかごを置いて立ってするようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かごを使用することで、物を落として捨ったりする時間が減り、流れがスムーズになった。</li> <li>基本的には一人ですが、困った時は保育士の顔を見るので、見守る事は必要である。</li> <li>自分の座る場所はわかっている。保育士が話をする前の席なので、活動の確認ができる。</li> </ul>	
社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の話を聞こうとする姿がある</li> <li>友だちの動きを見て動いている場面もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの友だちと座って話を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループを変更し、保育士が立つ位置の近くの席にして、関係の良い友だちの隣に座るようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育士が側にいながら、朝の準備をしていたが、困ったとき以外は自分でしている。</li> <li>自分のグループの友だちと一緒に行動している。</li> <li>保育士の前の席の方が話が聞きやすいようで、保育士の顔を見ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>状況に応じた保育士の言語化は、場面と言葉をつなげる事として続けていく。</li> <li>友だちでは嫌なときがあるので、その時は保育士が対応する事を周りのこどもたちにも知ってもらおう。</li> <li>ままごとコーナーでは友だちと食事を作る遊びが続きやすい。</li> <li>ビーズ遊びは、今までは一人でする事が多かったが、友だちを意識する姿が見られてきた。</li> <li>来期はビーズ遊びの友だちの中へ誘う回数を増やしてみる。</li> </ul>	
コミュニケーション面	<ul style="list-style-type: none"> <li>困っているときに友だちがさりげなく助けてくれ受け入れている姿がある。</li> <li>特定の保育士との関係が強い時期もあったが、縦割り保育の経験で、他クラスの保育士でも関係ができています。</li> <li>女兒を中心に優しい関わりをしてくれる事で、気持ちをゆだねられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>困った時は、保育士や友だちに動作で伝える。</li> <li>友だちとの関係を深めていく。</li> <li>友だちと同じ遊びを楽しむ。</li> <li>友だちと好きな遊びを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育士が様子をとらえ、その場にあった言葉を伝えていく</li> <li>困っている時に、周りのこどもたちがどうして良いかわからない時は、保育士が方法を伝えていく。</li> <li>まわりのこどもたちの遊びの接点を観察し、関わりやすい遊びからできるようにする(ままごと)。</li> <li>友だちの側に行き、遊び始める時に仲介となれるよう、見守っていく。</li> <li>関係の良い友だちを中心に関係を広げられる環境作りをする。</li> <li>グループを同じにする。</li> <li>自分でできる事は自分ですることも必要な事を、まわりのこどもたちにも伝えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育士の言葉を繰り返していることもある。</li> <li>友だちと一緒にしてくれる事で困らない場面と友達では嫌なときがある。</li> <li>ままごとコーナーで友だちと一緒に作った食事を他児に出す姿がある。</li> <li>友だちがビーズ遊びを始めると、ビーズを持って隣に座る姿がある。</li> </ul>		
この内容の支援で		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     ねらいや手立てが具体性に欠けるため、[何を、どのように]を追加した。                 </div>				
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     コミュニケーションの基本となる「人との交渉をする為の言葉」を知らせていくことは、大切である。                 </div>					保護者名	

- 36 -

児童名 T		家庭の様子		所長	担任(記録者)
クラス年齢 4歳児		運動会はどうなる事かと心配したが、みんなと一緒にやってくれたので安心したとの事。 11月からの母子通所の延長を悩まれたが続けることとなる。運動会を終えた頃から、更にお喋りが盛んで、保育所の様子を一時的だが話してくれる。今の母の願いは排便の自立である。		Ⓔ	Ⓔ
項目	児童の姿	ねらい	具体的な援助・具体的な手立て	具体的な状況	評価・今後の課題
生活面	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の準備はロッカー前の机に、リュックとかごを並べ、かごの中に取り出した4点(コップ袋・タオル・足拭きタオル・帳面)を入れ、かごと持って行っている。帳面のシールを貼る位置を確認しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の準備を保育士に見守られながら、自分でする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育士は最後まで見守っていく。困った時にサインがあった時は、どんな風に伝えるのかを教えながら、手伝っていくようにする。</li> </ul>	コミュニケーションスキルについて <b>お願いスキル</b> * 「取って」「手伝って」「教えて」「貸して」「助けて」など、お願いすることばの使い方を知らせていく。 * 保育士がこどもの行動を先取りしたり、すぐにわかったふりをせず、場面に応じた言葉を引き出していく事も必要である。 例) 物を取って欲しそうにしている時に「これを取って欲しいの? そんな時は『とって』って言うんだよ」と、言葉を添える。 * 言葉・文字・サイン・身振りや実物など本人が使える方法で自発的な表現を増やす。	
社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の話を聞いている時、集中しにくい時がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの友だちと座って話を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の話を聞きにくそうな時は、声をかけて話を聞ける環境を作っていく。</li> </ul>		
コミュニケーション面	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちとの関わりが増え、友だちと同じ机に自分のしたい遊びを持っていき遊ぶ姿が増えた。</li> <li>困っている時に友だちが(今まで関わりの無かったこどもたちも)さりげなく助けてくれ、受け入れている姿がある。</li> <li>保育士には、嫌な時には手を横に振ったり、首を振ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと同じ遊びを楽しむ。(ままごと・ビーズ)</li> <li>困った時は、保育士や友だちに動作で伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ままごとやビーズ遊びが好きなので、一緒に遊んでいる友だちと、保育士が仲介となり、やり取りをしながら共感していく。</li> <li>友だちには、動作で伝える事を受け止めてもらうようお願いする。</li> <li>保育士に動作で伝えてくる時には、その場面に見合った言葉を添えるようにする。</li> </ul>		
認識面	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつもではないが、聞いた事に見合った答えをする事がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な問いかけに答える言葉を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思いに近い言葉を探り、言語化したり、反復練習を取り入れたりしていく。</li> </ul>		
この内容の支援でおねがいします。				保護者名	

自閉的多動傾向のこどもの事例

平成 22年度 ~ 年度

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無
K	男	平成 17年 9月 日	3歳児クラス担任 K・Y・K	判定としてはでていないが、 やや自閉的多動傾向あり	
		入所年月日	4歳児クラス担任 S・O		
		平成 21年 4月 1日			
医療・相談機関			関係機関からの支援や情報		
平成22年度 ・〇〇区保健福祉センター ・〇〇区家庭児童相談室 ・通園施設 ・総合医療センター			平成22年度 ・2歳の時に、言葉の遅れと自閉傾向があるのではないかとされる。 ・保健福祉センターに紹介されて、母子で通所する。 ・H20・9月より通園施設に月2回母子通所する。 ・H22・5月より通園施設に週1回母子通所する。 ・H21・5月に総合医療センターで心理判定を受けるが特に遅れはないと言われる。		
保護者の願い			支援の目標・内容		
平成22年度 ・学校に行くまでに座って話が聴けるようになってほしい。 ・周りのみんなと同じことができるようになってほしい。 ・友だちとの関わりが増えてほしい。			平成22年度 ・注意が散りやすいので、スケジュール表や言葉がけを通して見通しをもって行動できるようにする。 ・友だちとの関わりが少ないので、保育士が仲立ちとなり、好きな遊びを楽しめるようにする。 ・友だちとのコミュニケーションをとるのが苦手なので、保育士が仲立ちとなりお互いの気持ちを代弁していく。 ・集団遊びなどルールのある遊びが苦手なので、ルールを簡単にし一緒に参加し楽しめるようにする。 ・こだわりが強い面があるが、保育士との信頼関係を作り、思いを受け止めてもらうことで納得して気持ちを切り替えられるようにする。		
この支援の内容でお願いします。			保護者名		

( 保育所)

児童名 K		家庭の様子 8月に一週間ほど休み、家庭でゆっくり過ごせたようで、母は成長を喜んで楽しみながら関わっている。家では姉と一緒に遊んだり、しまじろうのDVDをよく見ている。			所長 ⓔ	担任（記録者） ⓔ
クラス年齢 4 歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な援助・具体的な手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活面	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由遊びのあとの切り替えに時間がかかり、次の活動への準備が遅れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由遊びのあとの切り替えができるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ここまで作ったらおしまい」と保育士と一緒に決めて納得して遊びに区切りがつけられるようにする。</li> <li>好きな友だちに誘ってもらい一緒に行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で納得すると「またあとでしようね」の声かけで気持ちを切り替えて片付けられることもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で納得すると自由遊びのあとの切りかえはできることもあるが、次の活動の見通しをもつことは難しい。 ↑ 見通しをもつことができない。</li> </ul>	
認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>折り紙をすると「つくって」と言うことが多く、自分でやってみるように促されると「だってむずかしいもん」と言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>折り紙の折り方がわかり、自分でできる部分は自分でする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指先の不器用さもあるので、折り紙は、折りやすいように少し折り目をつけておく。</li> <li>保育士が側についてモデリングをしながら、折り方を丁寧に知らせていく。</li> <li>自分でできたことについては認め自信を持たせていく。</li> <li>手順表を提示し、自分でも見て意欲的に取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>側についてもらうことで「こうするのか」と折り方が理解できたり自分でできたことを喜んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>側について丁寧に関わってもらうことで、理解が少しずつスムーズにできるようになる。</li> </ul>	
コミュニケーション面	<ul style="list-style-type: none"> <li>ざりがにが好きでブロックで作ったり、絵に描いている。</li> <li>ブロックやラキューで作ったものを友だちのものと合体させて楽しんだり、喜んで保育士に見せにくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと同じ遊びをする。 (ラキューで遊ぶ・カーニバルでの遊びをする) ↑ 友だちと同じあそびを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと一緒に作ったものができた時に、保育士や好きな友だちと喜び合い、できあがったものを写真に撮って飾る。 ↑ 目に見える形の援助は、自信や達成感を持たせるのに、有効である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと一緒に図面をみながら、ラキューで好きなものを作り、完成すると一緒に喜んでいる。立体的で難しいものは、友だちに「作って～」と頼んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと一緒に楽しいという気持ちをもって、更に遊んでいけるようになる。</li> <li>できたことを認めていき、自分でできたという自信をもっていけるようにする。</li> </ul>	
社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きな友だちが増えて「一緒に～しよう」と言ったり、友だちからもよく声をかけられている。</li> <li>集団遊びに参加することは少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいに「楽しむ」という表現を使いがちだが「～する」と具体的な活動を上げていく方が望ましい。活動を理解し「楽しむ」ことをゴール（目標）として評価をしていく。</li> <li>クラスの友だちと一緒に集団あそびに参加する。 (リレー・玉入れなど)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きな友だちを同じグループやペアにして安心して参加できるようにする。</li> <li>参加できた時には、「楽しかったね。またしようね。」と保育士や友だちと楽しさを共感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーニバルの遊びを、友だちと一緒に楽しめる。</li> <li>玉入れやリレーなどクラスの友だちと楽しそうに参加できるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きなざりがにを取り入れたことで、友だちと一緒にお話遊びを楽しめたので更に劇ごっこにつなげていく。</li> <li>友だちと遊ぶことを楽しんでいるが、遊びのルール理解は難しい。更に友だちと遊んで楽しい気持ちを大切にしながら、遊びのルールを知らせていく。</li> </ul>	
この内容の支援をお願いします。				保護者名		

自閉症で ADHD 傾向と広汎性発達障害傾向を併せもつこどもの事例

個別支援計画

平成22年度～平成23年度

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病などの状況	手帳の有無
Y	男	平成17年9月 日	4歳児 N 5歳児 A・N	自閉症 ・ ADHD 傾向 ・ 広汎性発達障害傾向あり	身体障害者手帳 級 療育手帳 A・B1 <b>B2</b> 精神障害者保健福祉手帳 1級・2級・3級 特別児童扶養手当 1級・2級
		入所年月日			
		平成22年4月1日			
医療・相談機関			関係機関からの支援や情報		
平成22年度 ・ 大阪市こども相談センター			平成22年度 ・ 入所手続き時に、保健師より大阪市こども相談センターを紹介される。 ・ 22.4 B2と診断されるが、療育手帳の申請はしない。 ・ 22.5 再検査に行くが、前回との期間が短いので次回は2年後と言われる。 ・ 23.1 B2 判定。療育手帳取得。		
保護者の願い			支援の目標・内容		
平成22年度 ・ 友だちと仲良く遊んでほしい。 ・ のびのびと育ててほしい。 ・ 良いこと、悪いことのわかる人になってほしい。 ・ 友だちにけがをさせないように、保育所で悪いことをしたら叱ってほしい。			平成22年度 ・ 生活面では、手順カードと言葉かけで自分でできるようにする。 ・ 気持ちを安定させて、好きな遊びをじっくりとできる環境を整える。 ・ 保育士が仲立ちとなり、気持ちをくみ取りながら気持ちカードやコミック会話を使用して、相手の気持ちを伝え関わり方を知らせる。		
平成23年度 ・ いろんな困難にも負けずに強くなってほしい。 ・ 優しい人になってほしい。 ・ うそをついたり悪いことをしたら叱ってほしい。			平成23年度 ・ 保育士が仲立ちとなり、気持ちをくみ取りながら気持ちカードやコミック会話を使用して、相手の気持ちを伝え関わり方を知らせる。 ・ みんなの中のいろいろなルールを知らせ、場面ごとに言葉の使い方などコミュニケーションのとり方を知らせる。 ・ 気持ちを安定させて、好きな遊びをじっくりできる環境を整える。		
この内容の支援をお願いします。			保護者名		

( 保育所)

児童名 Y		家庭の様子 ・兄弟でブロックをしてあそぶ時にとりあいでけんかになるが、お互い「してない」とうそをつくようになった。母は見ていて知っている。うそをつくことについて父親に叱り役をしてもらったりする。 ・「ほいくしよたのしい」「せんせい、だいすき」と母に話している様子。			所長 印	担任(記録者) 印
クラス年齢 5歳児						
項目	児童の姿	ねらい	具体的な援助・具体的な手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活面	・自分なりの着替え方で時間がかかっていたが、保育士が側で手順カードをめくりながら伝えるとできるようになってきた。	・自分で手順カードをめくって、着替える。 ↓ ・着替えの手順を知る。	・手順カードを自分でめくり、着替えることを声かけし、番号を読み上げながら一緒にしていく。 ↓ ・着替えの順に衣服を並べておき着替えをしていく。(パンツ→ズボン→Tシャツ)	・保育士が、手順カードをめくり言葉をかけると着替えている。 ・自分でカードをめくる事はしない。  手順カードが効果的でなかった事を評価できていなかったので、反省を追加する。	・手順カードを使ってみたが、自分でカードをめくることは手間がかかり、面倒なことが苦手なので難しかった。言葉かけだけで着替えはスムーズにできてきている。 ・着替えの時に友だちにくっついていきスムーズに着替えられないので、着替える場所を決める。	
社会性	・早く給食を食べ終わるとごちそうさまの時間を待たずに片付けている。  ねらいを達成している姿と次の課題を分けて書く。	・ごちそうさまをする時間を知り座って待つ。	・時計の横に時計の写真を貼り、ごちそうさまの時間に針を合わせておく。「みんながまだ食べているから座って待ってください」と伝える。 ・できたら「ありがとう。待っていてくれたね。」と褒める。	・言葉かけで「ごちそうさま、まだ」と言って座って待っていた。  ここがポイント！褒められる経験をたくさんする。	・言葉かけをすると、待つことができた。 ・みんなの前で「ごちそうさま」をする役割を与え、自信につなげていく。  次のステップにつながる評価や課題をして次月につなげる。	
コミュニケーション面	・ラキューを組み立て、立体の球を自分で作っている。 ・ほしいパーツがあると友だちの使っているものを取ったり、作品を飾っているところをさわり取ってくるのでトラブルになる。	・自分の作品と友だちの作品がわかり、自分のものにはいけなことを知る。  友だちに許可を求めることが大切である。	・ラキューの作品のディスプレイの仕方を考え、名前のプレートをつけて誰のものかをわかりやすくしていく。  ・友だちのものを「みせて」と言ってみせもらう。 ・「友だちのものは取りません」とルールをクラス全体で話していく。 ↓ ・友だちのものをさわる時は「さわってもいい？」と聞いてから、さわってもよいことを知らせる。	・友だちの作ったものを持った時に「〇〇ちゃんの作った～やね」と声をかけると、「とったらだめ？」と言い元に戻している。  様子を見守り場面に応じた言葉かけをする。気持ちを探り次の手立てを考える。  達成感を味わうことができるような援助を考える。	・友だちと同じものが作りたい気持ちを聞き「おしえて」と言えるようにしていく。 ↓ ・先に言葉をかけたり行動を先どりするのではなく、行動を見守り状況に応じた声かけや支援をする。 ・ラキュー置き場に立ったまま、組み立てているので、必要なパーツ別に何個いるのかを知らせ、数えて容器に入れ、座って組み立てられるようにしていく。 ↓ ・作りたいもののパーツをあらかじめセットしておき、全部使えばひとつのものが完成するよう準備しておく。	
この内容の支援をお願いします。				保護者名		

児童名  Y		家庭の様子 ・本児や母の体調がすぐれず、休みがちである。 ・6/13~22 おたふく風邪にかかり、欠席する。 ・家で悪いことをするとたたいてつけているので、保育所でも叱ってくださいという母。子育てが大変な事はわかるが、話をして伝えていきたいと思います。			所長	担任(記録者)
クラス年齢 5歳児		側について援助は特性に合っていない。きちんとさせようとする保育士の思いと子どもの特性に無理が生じないように子どもの特性を見極めたねらいや援助を考える			印	印
項目	児童の姿	ねらい	具体的な援助・具体的な手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活面	・保育士の言葉かけで、着替えはスムーズになってきた。 ・着替えの場所を自分で選ぶために友だちと重なってしまったり、「こっちの方が広いよ」と言っても「いやだ。こっち」と言う。	・友だちとぶつからないように着替えをする。 ↓ ・自分の席で着替える。	・小学校では自分の席で着替えるので、自分の椅子にリュックを持って行って着替える場所を知らせる。 ・そばについて言葉かけしながら着替えをする。 ・「着替えたら教えてね」と保育士が少し距離を置き、自分でできたら褒め自信につなげていく。	・始めは好きな所へリュックを持って行き着替えようとしていたが、自分の席で着替えをするようになる。	・自分の席で着替えをすることで安心でき、間隔が確保できる。 ・繰り返し褒められる事で、決まった場所を着替えようとする事が多くなった。	
社会性	・友だちが作ったものを手に取った時に保育士の言葉かけで「○○ちゃんのとつたらだめ？」と言いき、元に戻している。	・友だちが作ったものを見たい時は「みせて」と言う。	・ラキューの作品を飾るのに棚を使い、誰のものかをわかりやすくディスプレイしていく。 ・友だちが作ったものを見たい時は、勝手にとらないで「みせて」と相手に伝えることを知らせる。	・友だちの作品をさわろうとするが、「これ、○○ちゃんの？」と聞いて置いている。	・名前のプレートをつけたりディスプレイする場所をわかりやすくしたこと、自分のものと友だちのものとの区別がつきやすくなった。	
コミュニケーション面	・トイレに行く時など通りがかりに友だちをたたく。	・友だちをたたかない。 友だち同士で伝え合うことも大切である。	「たたきません。お友だち痛いよ。泣いているよ。」と絵カードと言葉でよくないことを知らせたり、友だちからも「やめて」と伝えてもらうことで相手の気持ちに気づかせる。 ・たたかないですごせた時は褒める。	・たたいた時に保育士の言葉かけや絵カード、コミック会話を見て「○○ちゃんいたい?ごめんね」と言っているが繰り返している。 ・友だちが戸惑いながらも「いたいからやめて」と言うと、「たたいてない」と言い返している。	・たたいた時は、その都度言葉や絵カードで知らせていくことで回数は減ってきた。しかし繰り返す姿があるので、もう一度、たたくという行動の意味を探りそれに対処する適切な支援を考える。	
認識	・ラキュー入れからラキューを取り、立ったまま球状のものを作っている。	・ラキューのセットを席に持って行き、座って作る。	・作りたいものを事前に聞き、全部使い終わったら出来るようラキューのパーツをセットしておく。 ・保育士がそばにつき声かけしたり、 <u>持続して遊べるよう援助する。</u>	・好きなセットのかごを選んで机に持っていき始めるが、たくさんのピースのものを選ぶので途中で立ち上がって作品をさわりに行っている。	・準備していたセットの中にはピースの多いものがあり、じっくりとくむことができなかった。保育士と一緒にしながらも、自分で完成できるものを準備し作り上げた満足感を味わえるようにする。	
この内容の支援をお願いします。		要求を満足させるためには、まず保育士と一緒に作り、できあがった喜びを知らせることが大切なので追加した。			保護者名	